

《東北アジア地域一体化フォーラムの概要》

【フォーラム会場 北京大学】



【2007年に行われたフォーラム風景】



2007年5月には、東北アジア区域一体化研究センター及びオックスフォード大学政治国際関係学部国際問題研究センターが共同主催となり、中国、イギリス、アメリカ、日本、韓国、ドイツ、オーストラリア等の国からの60名もの学者や官僚、博識者等が出席いたしました。

【2008年に行われたフォーラム風景】



2008年11月には、環境に関する問題に論点をおき、熱論を闘わせました。

弊社が協賛しております、本フォーラムでは東北アジアを核心課題として、研究・討論を行っております。「アジア国家の歴史から見て、21世紀の地域はどのような協調・発展の可能性のあるのだろうか」「苦境解決のため、地域の国々はどのような役割をすべきか」「東北アジア各地域の一体化のために、我々はどのようなリードを行うべきか」等、世界各国は地域の経済一体化について、熱論を闘わせております。

また、自由な発言や討論が会議参加者の意見交換や研究の活発な推進に寄与し、国際経済、国際安全、環境等の分野での闘争解決から、反テロ、環境悪化、エネルギー、貿易発展、金融危機管理及び地域衛生管理等まで、幅広い観点で討論を行っております。

東北アジアは人口が多く地域も広大であります。その為、地域の政治制度や思想の違い等、様々な課題が存在する反面、各地域が資源や産業の面でお互いに補うことができれば、経済一体化を進める優位性にも恵まれております。今回のプロジェクトに参加した専門家、そして私たちは、フォーラム等の活動を通して政策提言を行い、東北アジア地域の経済、さらには国際経済の一体化に繋がるよう取り組んでまいります。



日本からは経済同友会のメンバーが参加しました。
(右) 弊社代表 松島敬尚